

秋山副知事の海外出張について

1 出張先

ロシア連邦・ソチ市

2 出張期間

平成26年2月5日（水）から同年2月9日（日）まで

3 出張の目的

第22回オリンピック冬季競技大会の開催期間中にソチを訪問し、開催都市の代表としてIOC関係者との面会を行うとともに、開会式に出席し、競技会場等の視察を行い、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催準備の参考とする。

4 出張人数

秋山副知事、同行者1名 計2名

5 総経費

4,475,564円

6 出張先での行動

日 程	内 容
2月5日(水)	成田空港発 フランクフルト国際空港着 フランクフルト国際空港発
2月6日(木)	ソチ・アドレル空港着 マルチサポートハウス視察 ジャパンハウス視察 フィギュアスケート競技会場視察
2月7日(金)	MPC/IBC視察 開会式
2月8日(土)	ソチ・アドレル空港発 フランクフルト国際空港着 フランクフルト国際空港発
2月9日(日)	羽田空港着

7 出張の成果

○ 選手村視察

総面積76haに及ぶ選手村のパブリックスペース（選手のレストラン、散髪屋、ショップなど）を中心に視察を行い、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、2020年東京大会という）の選手村運営の参考とした。

○ マルチサポートハウス視察

アスリートに対して、日本国内で通常行われるような環境でサポートを行うためにロンドンオリンピックから日本スポーツ振興センターが設置・運営している「マルチサポートハウス」を視察した。通常のスポーツ医・科学、情報等のサポートに加え、冬季大会となる本大会では、用具の調整を含めた多方面からのサポートを実施していた。

○ ジャパンハウス視察

JOC（日本オリンピック委員会）が大会期間中、ソチでの活動拠点として、またIOC（国際オリンピック委員会）委員やIF（国際競技団体）関係者へのホスピタリティ施設として設けた「ジャパンハウス」を視察した。「ジャパンハウス」内のTOKYO2020PRブースでは、2020東京大会の計画を紹介するなどし、設置期間中15,000人を超える来場者を集めた。

○ フィギュアスケート（団体）競技視察

2020年東京大会の競技運営の参考とするため、フィギュアスケートの競技会場であるアイスバーグで団体戦を観戦したほか、室内競技会場が集約されているオリンピックパーク内を視察した。



フィギュアスケート会場

○ MPC/IBC視察

オリンピック・パラリンピック大会期間中、一時的に設けられた報道機関の活動拠点となるMPC（メインプレスセンター）、海外への放映設備が完備されたIBC（国際放送センター）を視察した。IBCには、世界各国のテレビ局の特設スタジオが設置され、各国のテレビ局へ映像や現地レポートが送られており、秋山副知事の視察の際には、各メディアから歓迎を受けた。



開会式の様子

○ IOC委員等との面会/開会式視察

開会式前のホスピタリティエリアでの懇親の機会を利用し、開催都市の代表として数多くのIOC関係者と面会した。また、開会式に出席し、2020年東京大会における開会式運営の参考とした。



IBCで説明を受ける副知事